

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 松田 梨恵

本研究では、日本人の全身性強皮症患者における GERD 症状および逆流性食道炎につき検討した。

胃食道逆流症 (gastroesophageal reflux disease : GERD) を合併する全身疾患として全身性強皮症 (systemic sclerosis : SSc) が知られているが、両者の詳細な検討は乏しい。SSc は難病疾患に指定されている自己免疫疾患であるが、皮膚病変、消化管病変、肺病変、心臓病変、腎臓病変など様々な疾患が合併することが知られている。そのうち、食道病変は多くの SSc に合併することが報告されており、SSc 患者における消化管病変のコントロールは重要な臨床上的問題であるが、その全容は未解明である。今回の研究では、日本人における SSc と GERD の関連の正確な把握を試み、下記の結果を得ている。

1. SSc 患者 66 人を対象に GERD 症状と逆流性食道炎の評価を行った。F スケール問診票を用いた GERD 症状の評価と、上部消化管内視鏡検査を用いた逆流性食道炎の評価を行った。GERD 症状を有する患者は 58% と半数以上を占め、平均 FSSG スコアは 10.7 ± 8.9 点 (中央値 10 点) と高値であった。逆流性食道炎を 30% に認め、LA-C や LA-D の重症の逆流性食道炎を 7% に認めた。GERD の割合は 70% と半数以上を占めた。症状の無い逆流性食道炎の患者は 12% 存在した。GERD 症状と逆流性食道炎の関連は無かった。

2. SSc 患者の GERD 症状および逆流性食道炎が、それぞれ各臓器別の重症度と関連するか検討した。SSc 66 人を (1) GERD 症状 (2) 逆流性食道炎 (3) ステロイド内服 (4) PPI 内服の有無 (5) びまん皮膚硬化型 SSc (dcSSc) と局限皮膚硬化型 SSc (lcSSc) に着目し 2 群に分類した。GERD 症状は、PPI 内服者、間質性肺病変合併者、エンドキサンパルス歴保有者において有意に強く、諸臓器合併症との関連を認めた。一方、逆流性食道炎は諸臓器合併症との関連は認められなかった。GERD 症状と逆流性食道炎の関連は無かった。

3. GERD に関する全身性強皮症患者と対照者の比較を行った。PPI 内服、性別、年齢を調整因子とし、Greedy matching 非復元抽出法を用いて 1:2 マッチングさせ、SSc 患者 63 人と対照者 116 人で比較した。SSc 患者は対照者と比較し、GERD 症状を有する者が多く、さらに GERD 症状が強かった。SSc 患者は対照者と比較し、逆流性食道炎が多く、さらに重症者が多かった。そのため、SSc 患者は対照者と比較し、GERD が有意に多かった。SSc 患者、対照者に関わらず、逆流性食道炎と GERD 症状の関連は無かった。

以上、本論文では、SSc患者では対照者と比較し逆流性食道炎が生じやすく、かつ重症者が多いことを見出した。しかし、SScの各臓器別重症度からも、GERD症状からも逆流性食道炎の程度は推定困難であることが分かった。そのため、SSc患者では上部消化管病変に特に注意が必要であることが示唆された。

本研究結果は、日本人におけるSScとGERD（GERD症状および逆流性食道炎）の関連の正確な把握に寄与する可能性を示唆するものと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。